

注進 輕海郷延文四年御年貢濟物事

合

見錢

貳佰參拾貳貫參佰肆拾文

見米

貳佰陸拾玖石貳斗參升深合

除

壹石

御倉付

佰石

兵糧米

肆拾伍石

於國下用之

殘米

佰貳拾參石貳斗參升深合

代錢

玖拾貳貫肆佰貳拾深文 去年十二月中七百五十文 和市定

除

伍貫文

駿州替用途之時京都替賃壹和利定

伍貫文

今度五十貫文京都運上替賃同定

貳貫文

今度自京都運上鎌倉替賃

殘米代錢

捌拾貫肆佰貳拾深文

并都合錢

參佰拾貳貫深佰陸拾深文

所濟

拾貳貫陸百文

松岡僧替用途今年正月晦日御替狀在之

伍貫文

本順房替用途去年十月十日御替狀在之

伍拾貫文

二階堂駿河守替用途同年十月七日御替狀在之

拾貳貫文

宣藏主替用途今年正月晦日御替狀在之

參拾貫文

月藏主自加州被替留之用途御請取在之

拾五貫捌佰三十文

練絹代去年十一月廿三日御請取在之

肆拾貫文

宣藏主上洛之時同年五月一日御替狀在之

貳拾貫文

實有給分度々請取備之

壹貫文

明印房方遣之、彼狀進之候

壹貫文

妙寂法師下用途下行之

壹貫文

歲末扇代

伍拾貫文

今度替進上之六十貫内

殘錢

深拾肆貫參佰參拾深文 於國方々下行之

右大概注進如件。

延文五年閏四月廿五日

(稱名寺文書にこの類のもの甚だ多し。今その一例として之を擧ぐ。)

十一月廿四日。石川郡白山宮衆徒承儀、大師講

法筵に於いて無禮あるに依り過失に處せらる。

【白山比咩神社文書】 石川郡

四九二

延文五年霜月廿四日於大師講法筵承儀依無禮被過失畢。

康安元年極月十九日勸進能成御躰御唐櫃不結纏不覆綿

一向無沙汰之間被過失。又八講講師無稽古之間重被過

失畢。

康安二年十一月十一日於佛眼坊讀合時依無禮(コ、ニ判アリ)光什被

過失畢。

(以下書續あり。永和四年八月まで凡て六十八條に及ぶ。)

正平十六年

辛丑

延文六年

京都

康安元年

三月廿九日

紀元二〇二二

八月廿五日。富樫用家、富樫氏春の遺命に従ひて、勘解由小路の女房に加賀郡北英田保内氣屋村の田島を譲與す。

【美吉文書】 武藏

四九三

讓申され候 加賀國北英田保内氣屋村田島事

合中村名壹名并散田貳町者紙在之

右所領者、富樫介高家勳功之賞として拜領候。當知行無

相違候間、故介氏春かでのこらうぢの女房御方へゆづり申

され候あひだ、惣置文被載候而、田島のはん物見えす候

へども、申おかれ候むねにまかせて、かやうにはからひ申